

よくあるご質問（FAQ）

質問1 どうして誰もが知っているソメイヨシノやカワヅザクラが選択品種にないの？

答え ソメイヨシノもカワヅザクラも樹形は左右に枝を広げる傘状と言われるものです。公園などの広い敷地に植樹するのと違い、ふれあいの丘駅両側（池辺歩専道南側）は自転車・歩行者専用道であり、道幅もそれ程広くないので、左右に枝が広がる傘状タイプのサクラは適していません。また、ソメイヨシノは樹高15～20mくらいに成長する大型樹木です。枝の張り・樹高・根の成長を考えた時、一部歩専道の両側にマンションが建ち並び、植え樹の大きさの限られたこの地での植樹に適しません。

今回選んだ3種「ヨウコウ」「コシノヒガン」「センダイヤ」の樹形は広卵状といいます。

高木になっても卵型で左右にあまり枝が広がりません。

カワヅザクラの桃色のピンク色の花色に近いのは「ヨウコウ」の花色です。ソメイヨシノのように淡いピンク色の花色でソメイヨシノより小型なサクラが「コシノヒガン」です。ただ、品質の特性（樹高、樹形、開花時期）については、気象条件や植栽環境により異なる場合があります。



質問2 どうして現在植えられているヤマザクラが選択品種にないのですか？

答え 普通、ヤマザクラはソメイヨシノと同じように傘状の樹形でとても大きくなる樹種です。栽培品種のサクラと異なり、ヤマザクラのような野生のサクラには変異（個性）が多くあり、現在ふれあいの丘周辺のこの地域（池辺歩専道南側）に植えられてあるヤマザクラはやや小型のようですが傘状で広がりのある樹形です。またで典型的なヤマザクラと比べて花色のピンク色が濃いです。後継としてヤマザクラ系統（栽培品種）のセンダイヤが選択候補の一つにはっています。センダイヤは広卵状で、花色は現在あるヤマザクラの花色と似ていると思われます。

質問3 候補に挙げられているサクラは知らない。もう少し候補のサクラが多いと良いと思うが。

答え サクラの品種は自然交配のものだけでも100以上あるといわれています。しかし、この地域の環境に合った品種候補を選ぶ時、開花時期、樹高、樹形、花色、入手可能品種かどうかなどを考慮すると意外と少なくなります。池辺歩専道南側（セブンイレブンから千人橋まで）は合計31本という本数の少ないサクラ並木であり、植え替えは一斉ではなく、現在あるサクラを伐採した時に補植をするという方法により桜並木の状態を改善していく予定です。そのため選択肢がさらに限られ、専門家の意見を参考に3品種を候補に選びました。

質問4 どうやって3候補を選んでいったのですか？ 専門家とは誰ですか？

答え 枝が左右に広がらないで巨木にならない品種、花色、開花時期、病害虫への強さ、風の影響を受けるかどうか、この地に植えるメリット・デメリットなどを検討しました。まちづくり協議会メンバーは2021年春に目黒区を訪問しサクラ見学・区役所の担当者にさくら並木再生状況を聞く。その他座間・川和町などのサクラ見学。さらに専門家の意見を聞いてこの三品種を選びました。専門家とは公益財団法人日本花の会 <https://www.hananokai.or.jp/> の樹木医の方で、4月にふれあいの丘の現地調査をしていただきました。

現地調査の報告書はQRコード



質問5 どうして桜が咲いている春でなく今投票するの？

答え 本来2020年の11月ごろに住民の希望品種を選んで都筑土木事務所に報告するはずでした。しかし、コロナ禍によりまちづくり協議会の活動が制限され、2020年には桜の見学・調査ができませんでした。それで都筑土木事務所に1年延期してもらいました。

本来は桜の咲いている時期に、もし候補のサクラが同じ場所で咲いていて比較できれば一番わかりやすいです。しかし、そのような場所がなく、また開花時期も違うため、みなさんにはいろいろな場所に時期を変えてサクラ見学に行っていたかなくては比較することはできません。それでポスターを作成し10月の丘連祭などのイベント開催時に対面で説明しシール投票をするのが一番良い方法と考えていました。しかし今年もコロナ禍で丘連祭が中止となったために、このような代替方法による投票を実施することになりました。

質問6 サクラが衰えて伐採したところにまたサクラを植えるのはいや地で育たないのではないですか？

答え いや地については専門家からも土壌調査・土壌の入れ替え・改良などのアドバイスをもらっており土木事務所に補植時の条件として言います。

質問7 過去百日紅が桜の後に植えられています。これはそのままなのでしょうか？

答え はい、枯れない限り百日紅はそこに植えられたままになります。